



如水クラブ
山本 由夫
議員

▼島原市の活性化のイメージについて

Q 地域活性化のための産業振興策として①観光業、②物産流通、③地場企業の育成への取り組み状況は。

A ①島原半島観光連盟と連携し、修学旅行の誘致や体験型観光の推進。②百貨店等での特産品の販売や、市の特産品認定制度などによるブランド力の向上、商談会での産品の売り込み。③企業立地の促進及び雇用創出に関する条例による各種支援に取り組んでいる。

Q 健康保養都市への取り組みに対する市長の考えは。

A 温泉、湧水、葉草園、ジオパークなどを一元化してコーディネートしていくような活動が重要だと考える。

▼行財政改革について

Q 市のレベルアップには政策力、情報収集力、事務力、サービス力が重要である。また、研修会への参加や、県との人事交流を継続的に行うことも大切だと思いが市長の考えは。

A 職員研修の重要性は認識しており、県との人事交流も必要だと考えている。

Q 行政評価は個別の事業を評価することに加えて、施策全体の中での優先順位も必要だと考えるがどうか。

A 政策課題等についても行政評価委員会で議論していきたい。

Q 官民連携については、官と民のそれぞれが求めるものについて自由に意見交換をする場がないことが問題だと思いがどうか。

A 公務員としての確実な事務処理や業務遂行を土台として、その上に民間の考え方が備わればよいものが生まれてくると思う。民間ならではの発想を取り入れることは今後必要だと思う。

Q 財政改革について、新地方公会計制度の導入で財政の透明度が一層向上すると考えるが、進捗状況はどうか。

A 公会計制度は従来の自治体の会計制度に企業会計の要素を取り入れたものだが、道路や橋などの社会基盤施設の資産台帳の整備に多大な時間を要している。来年四月には国から指針が出されるので引き続き努力していきたい。

▼市庁舎建設について

Q 基本構想案において、島原半島の一体化に対する市長の考えは。

A 人口減少も勘案すべきだが、十年後、十五年後に島原半島がまとまったとしても、島原半島の顔たる立派な庁舎になり得るイメージで進めている。



公明党
永尾 邦忠
議員

▼レセプト・健康情報等を活用したデータヘルスの推進について

Q データヘルスとは、データ分析に基づく保健事業だが、本市の考えは。

A 本年度、国民健康保険中央会が、健康診査・保健指導、医療、介護の各種データを活用する国保データベースシステムを構築する予定であり、このシステムを積極的に活用し、市の実情に即した保健事業展開につなげたい。

Q 本市の医療費の推移と今後の予想はどうか。

A 平成二十四年度は約四十九億円であり、毎年度増加している。被保険者の高齢化、疾病構造の変化や医療の高度化などにより、今後も医療費は増加していくと考えている。

Q 医療費の通知とジェネリック医薬品の差額通知は別々に発送しているという点だが、一緒にできないのか。

A 国保連合会が県下統一して作成しており、協議する必要があるが、通知内容が複雑になると感じている。

▼スポーツ振興条例の制定について

Q スポーツを通して介護と医療の予防を推進するべきではないのか。

A 教育委員会と福祉部局が情報を共有し、スポーツを介して、さらに健康寿命が延びるような取り組みを行う必要があると考えている。

▼プロリ菌について

Q 特定健診の項目への追加や助成については検討しているのか。

A 特定健診と同時に実施できるように、費用や対象者について、島原市医師会と協議を進めている。

▼しまばら温泉不知火まつりについて

Q 新能は観客も多く大変良かったが、市中パレードは観客も少なく盛り上がりに欠けていた。抜本的に見直す必要があると思うがどうか。

A 外部からの意見を出し合う場が必要だと考えている。意見を真摯に受けとめ、集約してみたい。

【その他の質問項目】

◇かんばんの宿跡地のその後について